

人材育成等に関する目的
建築学科は、ハード・ソフトの両面から、自然・人間・社会の調和した環境の基盤を創出、保全するための知識・能力を身に付けるため、計画・環境・構造に関する専門教育を中心として、バランスの取れた総合的な教育を通じて、真に社会に貢献できる人間性豊かな技術者・設計者等となるための学問的基盤を身に付けた人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー
1. 建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、建築学を通して社会に貢献できる人材の育成を目標とし、幅広い基礎知識と高度な専門知識の基盤を培うための学士(工学)の教育課程を編成する。 2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実施する。 3. 時間的な知識の修得を促すため、一時的教養を深めるための「一般教養科目」、建築学分野の基礎的な「基礎科目」、建築学分野の専門知識、技能を習得し、技術者・設計者・研究者等に必要能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。 4. 建築学分野で活躍するためのキリツ教育や、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む学習機会を提供する。 5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰する能力、判断力・行動力を養う授業科目を効果的に配置する。 6. 建築学分野においては、状況に応じた柔軟なクラス編成を取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。 7. 「基礎科目」では、初年次より「基礎基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生の自ら学ぶ学習時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。 8. 「専門科目」では、課題の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門分野の知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、建築学分野の専門家としての基盤を醸成する。 9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究・卒業制作を実施し、課題の分析、調査、問題解決の手段を学ぶことで、建築及びその関連分野の自立した技術者・設計者として問題発見・解決能力の育成を図る。 10. 自身の専門分野を超えて幅広い関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
ディプロマ・ポリシー
実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った建築学分野の技術者・設計者・研究者等の養成を目標とし、以下の知識、能力を身に付け、建築学科の所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 1. 建築学分野に必要な基礎学力 2. 建築学分野における幅広い視野と確かな専門知識 3. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、建築学分野に限らず横断的なものごとを俯瞰する能力 4. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力 5. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力 6. 建築学分野の課題に対して、探究の成果を表現するプレゼンテーション能力 7. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力

分野	科目群で身に付ける能力	学士課程1年次	学士課程2年次	学士課程3年次	学士課程4年次
基幹 基礎 科目	専門分野の学習に移行するのに十分な基礎学力	前期 線形代数1 微分積分1 物理学1 化学1 数学演習1 後期 線形代数2 微分積分2 物理学2 化学2 数学演習2	前期 デジタルデザ イン 後期 プログラミング 概論	前期 後期	前期 後期
共通 科目	1. 建築学全般に関する幅広い知識 2. 専門領域の課題に対して自ら調査し、考察し、とりまと め、発表し、議論する能力	設計基礎1 図学 建築概論 デザイン演習1 設計基礎2 デザイン演習2 設計製図1 設計製図2 データサイエ ンス・AI応用 基礎	建築施工 プロジェクト研究 建築法規 パラメトリック デザイン 建築数値 総合工学 データサイエ ンス・AI応用 基礎	卒業研究及び 卒業制作1 卒業研究及び 卒業制作2	
計画 系科目	建築の計画・設計に必要なソフトおよびハードの知識と理論を学修し、自分で創造する建築を計画・設計・表現できる能力	建築計画1 日本建築史 構法計画A 建築計画2 世界建築史 構法計画B	設計製図3 現代建築 近代建築史 建築ディテール 都市計画 設計監理 建築空間論	第一部門(計画設計及び演習 建築生産 都市史 都市デザイン ランドスケープ 計画理論	建築・都市設計
環境 系科目	熱・光・空気・音などのやり取りによる物理的・心理的現象を理解し、環境負荷の少ない快適空間の構築を行うための幅広い視野と確かな専門知識	建築熱・空気環境1 建築音・光環境1 建築熱・空気環境2 建築音・光環境2	建築環境測定 建築環境工学A 建築設備設計 建築防火	第二部門(環境実験及び演習 建築環境工学B 建築環境工学C 建築設備計画	
構造・ 材料 系科目	建築構造物が耐用期間中にどのような外力を受けるか、それらの設計外力に対して、安全性をどのように確保していくかを研究、技術開発、設計するための幅広い視野と確かな専門知識	力学基礎及び同演習 材料力学及び同演習 建築材料1 建築構造デザイン 構造力学及び同演習 金属材料1 建築材料2 金属系構造1 建築振動1 建築材料2 金属系構造2 建築振動2	※建築構造・材料実験及び演習※ ※コンクリート系構造※ 金属系構造2 建築振動2	第三部門(構造・材料実験及び演習 建築基礎構造 木質系構造 構造計画 建築維持管理技術 応用構造・材料工学	建築構造設計製図

必修科目
※1 2科目中1科目選択必修
※2 3科目中2科目選択必修
※3 3科目中1科目選択必修
選択必修科目
選択科目